

吉野熊野国立公園こどもパークレンジャーに協力

11月3日（水曜日）、三重県大台町の大杉谷自然学校で、環境省主催の吉野熊野国立公園こどもパークレンジャーが開催され、三重森林管理署からも協力参加しました。今回のイベントは、パークレンジャーに任命されたこどもたちが「宮川の水はなぜキレイ？」をテーマに大杉谷登山口の周囲を散策・観察し、自然とふれあい、森林のはたらきや仕組みについて考えてもらうことを目的として開催されました。当日は雲一つない快晴に恵まれ、親子9名が参加していました。

はじめに大杉谷周辺の散策を行い、通称赤橋と呼ばれる橋を渡り、川の様子を観察や国立公園の話を行いました。この橋は足下から川底の様子が見えることから子供たちは「こわいこわい！」といった声が聞こえましたが楽しそうに橋を渡っていました。



赤橋にて足元から川の様子を観察

自然保護官の話に興味津々！

次に訪れたのは六十尋滝（ろくじゅうひろたき）です。ここでは滝からの水と谷からの湧水に触れ、温度計を使って水温に違いがあるか計測しました。また、谷地形を観察し水はどこからきているのかを考えてもらい、この水辺にはトチノキが多いことや、山での水の働きについて学習しました。



栃の実の水辺に多い



六十尋滝の前で記念写真

午後からは、大杉谷登山道の入り口（三重県側）付近にある大日嵩（だいにちぐら）を歩きました。大日嵩の登山道入口は岩をくりぬいた道となっていてスリル満点です。子供たちはヘルメットを装着し、登山道に備え付けられたチェーンをつかみ、足元に注意しながら歩いていました。また、川の水がエメラルドグリーンに見える理由の説明を受け、宮川の水の美しさに子供たちは改めて感銘を受けたようでした。



ヘルメット着用



エメラルドグリーンの理由とは？

大杉谷自然学校に戻り、当署職員から、なぜ山の水はキレイなのか森林の働きを通して説明しました。合わせて、私たちが行っている仕事との関係について紹介をしました。最後にこどもパークレンジャーの締めくくりとして、今回体験したことを絵はがきとして作成し、感想を添えて子供たちが発表しました。できた絵はがきは参加者の思い出がいっぱい詰まった素晴らしいものでした。



森林の働きを学ぶ



素敵な絵はがきができました！

今回の「宮川の水はなぜキレイ？」というテーマから、こどもたちが、自然の仕組みについて考えるきっかけとなったのではないかと思います。